



# 令和7年 9月号 園だより

江戸川区立船堀幼稚園

—教育目標—  
元気な子ども  
明るい子ども  
考える子ども  
思いやりのある子ども

園長 東 美和

## ～地球を守るためにできること～

44 日間の夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が園内に響いてきました。楽しかった夏の思い出を友達や先生に話しながら、2学期が始まることを楽しみにしているでしょう。

本園の教員は夏休みを利用してさまざまな研修を受講しています。私はある研修会で一般社団法人 Climate Integrate 代表理事 平田仁子氏の「気候変動の今、これから」という講演を聞きました。地球温暖化による平均気温は 2024 年に 1.5℃上昇、しかしこのままでは 2100 年には 3.6℃まで上昇することが予想されるそうです。

『気候変動の情報を示すことで、それぞれの立場で実践できることを考えてほしい。地球温暖化につながる温室効果ガスは、2030 年までの大幅削減が必要である。気候変動の原因は人間が起こしたこと、この構造を変える仕組みを考える必要がある。ただ、考えてもできない理由が多すぎる。その中で必要とされるのは一人ひとりの力である。情報、知識等から、「こんなことをしませんか?」と声をあげることはできるのではないか。気候危機に立ち向かうための潜在能力をもつ人材育成が必要である』というお話でした。

私は園の子どもたちの取り組みを思いながら聞いていました。区の政策である『2030 年の江戸川区 (SDGs ビジョン)』では、『SDGs12 つくる責任つかう責任』として『もったいないという文化が広がり、循環型社会が形づくられる』ことを目標に示しています。そして江戸川区の幼稚園や小学校では SDGs の取り組みとして『もったいない運動』を進めています。園の子どもたちが日々取り組んでいる活動をご紹介します。

○ゴミの分別…『もえるゴミ』『もえないゴミ』『紙のリサイクル』に分ける。

リサイクルされた紙は新しい紙となって再利用

○たんくろうの利用…玄関前やホール横のタンクに雨水を貯め野菜や草花の水やりに利用

○ペットボトルのふたの回収…エコキャップとしてワクチン接種のための寄付

他にも「水道の水を使うときは、水の出しすぎはもったいないよ」「使っていない部屋の電気は消そうね」など日々の生活の中で声をかけています。PTA のアルミ缶回収活動もその一つでしょう。このような一人ひとりの小さな力が、SDGs を『学ぶ』ことにつながり、気候危機に立ち向かう潜在能力につながっている!・・・というのは大げさですが、子どもたちにこれらの活動が地球を守ることに繋がっていることを知らせ、今後もできることから取り組んでいきたいと思えます。お子さんとご家庭でも『もったいない運動』を進めてみてはいかがでしょうか。



切った紙はリサイクルの箱の中へ



たんくろうの水で水やり